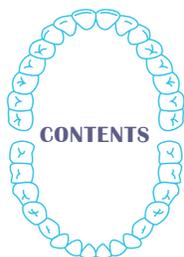


東京医科歯科大学 歯学部附属病院通信



- 若林則幸新病院長インタビュー
- 外来診療科長からご来院の皆様へメッセージ
- 外来診療科のご紹介～口腔ケア外来～
- 歯学部附属病院支援基金にご協力ください



入院患者さんへの
口腔ケア

ご来院の皆様へ

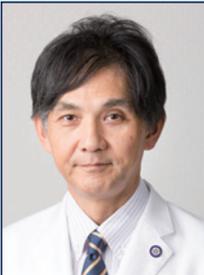
本院は大学附属病院であることから、理念として「優れた医療人の育成に努め、患者さん一人ひとりにあった最高水準の歯科医療を提供します。」を掲げています。すなわち、良質で安全な歯科医療を提供するだけでなく、教育病院として将来の歯科医療を担う優れた医療人を育成すること、先端的歯科医療のための臨床研究や各種治験を推進することも本院の重要な使命です。



安心して快適
な入院施設



世界唯一の現存する木製つぎ歯
江戸後期(1780年～1868年)
本学所蔵



ご挨拶

社会に役立つ病院で あり続けるために

東京医科歯科大学歯学部附属病院
病院長 若林 則幸



プロフィール

1988年
1992年
1994年
2006年
2009年
2013年
2017年

東京医科歯科大学歯学部卒業後、歯科補綴学第一講座に入局
東京医科歯科大学 大学院修了(歯学博士)
同 歯学部附属病院 助手
岩手医科大学歯学部 助教授(歯科補綴学)
東京医科歯科大学大学院 准教授(部分床義歯補綴学)
東京医科歯科大学大学院 教授(部分床義歯補綴学)
同 歯学部附属病院長

趣味は一つありませんが、身の回りの小さなことを楽しむことを心がけています。

平成29年4月1日に就任した、若林則幸病院長にお話を伺いました。

Q. 歯学部附属病院の理念、こころざし、特徴を教えてください。

私たちの理念は、優れた医療人の育成に努め、患者さん一人ひとりにあった最高水準の歯科医療を提供することです。これを実現するために、安全で質の高い歯科医療を実践すること、人間性豊かな歯科医療人を育成すること、新しい歯科医療の開発を推進すること、そして口腔の健康増進を通して社会に貢献することが、私たちのこころざしです。

本院は大学の附属病院という基盤を持ち、歯学部の学生、臨床歯科研修医、大学院生、さらに卒後研修を受ける歯科医の臨床教育を使命としています。また、地域の歯科医院や診療所、病院と連携しながら、これらの医療機関が本院に求める専門性の高い歯科医療を地域の患者さんに提供することが重要です。私たちは地域の医療機関と協力しながら、相互補完的に地域の医療に貢献することを目指しています。

Q. 最高水準の歯科医療を患者さんにご提供するために、病院長として心がけていることは何ですか？

本院は、国際的に高く評価されている本学歯学部の教員を医療スタッフとしており、その実績に基づく質の高い医療の提供を目指しています。先端的な技術や材料を基にした新しい治療方法の開発を目指していることはもちろんですが、患者さんを中心に置く医療の実践、医療現場での多職種によるチームワークの推進、そして安全の確保を第一に考えた病院機能の強化が、結果として最高水準の歯科医療を生み出すものと考えています。

本院のもう一つの特徴は、全国でも屈指の医学部である本学医学部と医学部附属病院と同じ敷地内にあり、多くの連携機能を持っていることです。両病院のスタッフの多くは学生時代から同じ教育を受けた仲間であるため、強い連携を行える土壌があります。近年はこの連携が様々な医療の現場でより活発になっていますが、それはすべて患者さんにとって良いことをしようという気運から高まってきたものです。

Q. 1日約1800人の外来患者さんがいらっしゃいますが、サービス面で注意していることがあれば教えてください。

30年以上前に現在の本院が建造されたとき、1日700人程度の外来患者さんが想定されていたと聞いています。それ以来現在までの間、診療科の数も飛躍的に増え、全国からたくさんの研修医を迎える機能が充実してきた反面、外来患者さんの来院数は想定数の2.5倍となり、診療スペースの不足や診療機能の円滑性の低下などが懸念されるようになりました。今後数年間で予定している病院の再整備では、将来の歯科医療の進歩と歯科疾患の動態の変化も視野に入れた改築を行い、患者さんの利便性やセキュリティーを重点的に強化して、安心して来院していただける病院になるよう、取り組んでいきたいと考えています。

Q.病院スタッフには、病院長としてどのようなアドバイスや指導を行っていますか？

若い歯科医療者には、エキスパートではなくプロフェッショナルを目指すよう、話しています。知識と技術を持っているだけでは医療者として甚だ不十分であり、患者さんの困っていることに対してどのように自分の技術を生かし、問題を解決できるのかを、常に患者さんと向き合いながら考え、実行できるプロフェッショナルを目指して欲しいと思います。

Q.若林病院長が歯科医師になった経緯を教えてください。

私の家族や親類に歯科医師や医師はおりませんでしたので、歯学部に入學するまで歯科医師の仕事の内容を詳しくは知りませんでした。しかし、子供の頃の自分は、歯科医師は自分の技術によって人の痛みを取り除くことができる職業というイメージを持っていて、そこに大きな魅力を感じていたと思います。東京医科歯科大学に入學できたときの嬉しかった気持ちを支えにして現在まで仕事に取り組んでまいりました。その間あっという間に時間が過ぎてきたように思います。

Q.若林病院長の専門である歯科補綴学とは？

私の専門は部分入れ歯（部分床義歯）です。歯を1本失った方からほとんどの歯を失った方まで、様々な口腔（こうくう）の状態をもった患者さんの噛み合わせを回復するために、義歯を中心とした診療とその研究を行っています。このように、歯の喪失による機能障害を研究し、それに対する治療技術を開発するための学問が歯科補綴学（しかほてつがく）です。本院において歯科補綴学の専門医は、3階の義歯外来や4階の先端歯科診療センターで診療を行っています。

Q.病院長とはどんなことをするお仕事ですか？

病院長としての基本的な使命は、病院全体が上手く機能しているかを毎日確認し、本院が将来も社会の中で役に立つ病院であり続けるためにどうすれば良いかを考えることです。そのために毎日、たくさんの現場のスタッフや職員と会議や打ち合わせ、現場視察を行いながら、密に連絡を取っています。本院にあるたくさんの専門外来・診療科には全国屈指の専門医が配属されていますが、それらが独立した診療施設ではなく、強固なチームワークを形成することによって一つの病院が成り立っています。病院長の大切な仕事は、このチームワークを円滑に行えるようにし、スタッフの優れた能力を発揮させることにあります。

Q.今後の目標についてお聞かせください。

本院は今後数年間にわたり、病院の再整備に伴う診療科の再編成を行います。大学病院としての使命を達成するために、財政基盤の安定化を図りつつ、将来の疾患構造の変化にも対応できるよう、診療環境の整備と体制の確立に努めてまいります。再整備に伴う改修工事などが行われる間、来院される患者さんにご迷惑をおかけしないよう、また現在行っている医療サービスは継続してまいりますので、どうぞご安心下さい。

Q.患者さんへのご要望やメッセージなどをお願いします。

本院で行われる歯科医療は、国際的に高い評価を受けている東京医科歯科大学歯学部で行われている先進的な研究と教育の活動と密接に結びついています。この関係は、歯学部が附属病院を通してその成果を社会に還元してきたと同時に、患者さんからのご意見に基づいて歯科医療の質をさらに高めることができた、というこれまでの実績からも明らかです。そのような意味で、本学と本学附属病院の将来は、今日来院されている患者さん一人ひとりと共に作り上げていくものであり、私たちは常に患者さん方と共にあると考えています。

外来診療科長からご来院の皆様へメッセージ

歯学部附属病院にはどんな診療サービスがあるのでしょうか？
外来診療科長から、それぞれの診療内容についてご紹介します。

育成系診療科

矯正歯科外来



小野 卓史

最新の検査に基づき様々な不正咬合（悪いかみ合わせ）に対する治療を行っています。叢生（でこぼこ）、上顎前突（出っ歯）、反対咬合（受け口）を始め、顎変形症などの手術を組み合わせた治療も手掛けています。

育成系診療科

小児歯科外来



宮新 美智世

子どもの健全なお口を育て健康と幸せに貢献することを目指し、成長に適した予防から治療困難な歯への対応までを承り一生健全なお口を保つ基盤を築きます。歯の外傷専門外来では保存が難しい歯の治療も研究しています。

維持系診療科

むし歯外来



興地 隆史

むし歯や歯の外傷、および歯の神経や根の病気に対する専門外来として、接着性修復治療やホワイトニング治療、歯科用実体顕微鏡を活用した歯内治療など、先端的技术・機材を駆使した専門的医療の提供に努めています。

維持系診療科

歯周病外来



和泉 雄一

歯周病外来では、主に歯周病（歯肉炎・歯周炎）に対する歯周治療、歯周形成外科手術などを行っています。また、先進医療の『歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法』の実施承認を得ています。

維持系診療科

ペインクリニック



嶋田 昌彦

当科では、口や顔、顎の慢性的痛みや感覚の麻痺、味覚障害やドライマウスなどの不快な症状、顔面神経麻痺などを対象として、漢方薬も含めた薬物療法や鍼治療、レーザーや近赤外線照射、イオンフォレーシスなどを用いて最適な治療法を提供しています。

維持系診療科

歯科心身医療外来

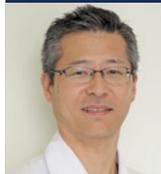


豊福 明

従来の歯科処置では改善が難しい、中枢を巻き込んだ歯や口の不快な症状（ヒリヒリ・ピリピリ・ネバネバ・ヌルヌル・咬み合わせの不具合など）に対して、専門の歯科医師が心身医学的な精査と治療を実践しています。

維持系診療科

顎関節治療部



西山 暁

顎関節症、はぎしりやくいしばり、筋肉痛による歯の痛みなどに対する治療を行っています。治療はセルフマネジメントが主体になることが多いため、病気について十分理解をしていただくことが重要となります。

回復系診療科

口腔外科外来



原田 浩之

当科では、口腔顎顔面領域の各種疾患の診断と、それらの外科的治療を主として行っています。咬合、咀嚼、嚥下、発音、審美面を最大限配慮し、患者さんにとって最善の医療が提供できるよう努力しています。

回復系診療科

義歯外来

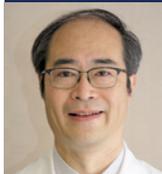


三浦 宏之

かぶせ物や入れ歯など人工修復物を作製し、かみ合わせや審美性を回復する外来です。金属を全く使わないかぶせ物、金属のバネが見えない入れ歯、柔らかい材料を用いた総入れ歯などの先進的な治療も行っています。

回復系診療科

快眠歯科(いびき無呼吸)外来



秀島 雅之

日中の強い眠気や集中力の低下、生活習慣病の悪化等を生じやすい睡眠時無呼吸症に対するマウスピース治療を行います。マウスピースで下あごが前方に突き出すよう工夫され、睡眠中の気道を広げ、いびきや呼吸が止まるのを防止します。

回復系診療科

顎義歯外来



谷口 尚

口腔内や顔面に、がんの切除や口唇裂口蓋裂などによる欠損のある方に、顎義歯(オプチュレータ)、舌接触補助装置や顔面エビテーゼを製作し、機能と審美の回復と改善のお手伝いをします。スパーサといった放射線治療補助装置なども製作しています。



回復系診療科

言語治療外来

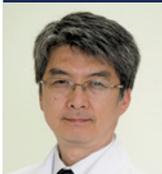


谷口 尚

口腔癌の術後に見られる構音障害、口唇口蓋裂による構音障害、発達中に見られる幼児音など、発音に支障のある方を対象としています。幼児から成人まで、相談、検査、診断、訓練を行なっています。

回復系診療科

スポーツ歯科外来

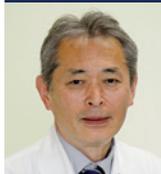


上野 俊明

スポーツを行う上で、歯と口の健康は欠かせません。学生・愛好家から本格的な競技者まで、スポーツ歯科専門医がトータルサポートします。外傷予防効果に優れたマウスガードやフェイスガードをカスタムで作製します。

回復系診療科

インプラント外来



春日井 昇平

歯を失った部分の顎骨に人工歯根を埋めておこなうインプラント治療には、しっかりと噛むことができ、残っている歯に負担をかけないという利点があります。当科は、安全で確実なインプラント治療を提供します。

回復系診療科

(専)顎口腔変形疾患外来

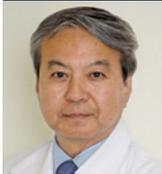


原田 浩之

口唇・口蓋裂や顎変形症などの顎口腔変形疾患に対して、各専門診療科(矯正歯科、口腔外科、小児歯科、顎義歯、言語治療、インプラントなど)によるチーム医療により、高度で統合的な診療を提供します。

総合診療科

歯科総合診療部



荒木 孝二

本外来では初診患者さんがどの専門の診療科に行くべきかを判断する予診業務を行っています。6月より本外来の初診受付は予約制に移行しています。初めて受診される方は新患予約センターで事前予約をお取りください。

総合診療科

歯科麻酔外来



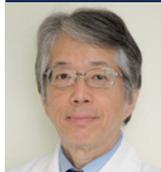
深山 治久

当科は、他の病気や障害、例えば高血圧や糖尿病、脳卒中、知的障害などを持っているために歯科診療に際して特別な注意が必要な患者さんに鎮静法、全身麻酔法、モニタリングなどを行い、安全な環境作りをしています。

外来診療科長からご来院の皆様へメッセージ

総合診療科

歯科放射線外来



倉林 亨

歯科放射線外来では、歯学部附属病院に来院される患者さんの画像検査を行います。CTや歯科用CT、MRI検査については、すべて歯科放射線専門医が読影を担当し、質の高い画像診断を提供しています。

総合診療科

スペシャルケア外来



篠塚 修

種々の障害や全身疾患を有する患者さんおよび一般的な歯科治療が困難な患者さんの包括的な歯科治療を行っています。必要に応じて、モニタリングによる全身管理、精神鎮静法、全身麻酔法による治療を行っています。

総合診療科

(専)摂食嚥下リハビリテーション外来



戸原 玄

摂食嚥下とは口からものを食べることを指します。外来に通院できる方や本院入院中の方だけではなく、通院困難な場合は訪問で口から食べる機能の支援をしています。高齢者のみならず、難病の方や小児にも対応します。

総合診療科

息さわやか外来



川口 陽子

息さわやか外来は、口臭に関する診断・治療・予防を行う専門外来です。官能検査や機器を利用した口臭測定を行い、口腔内診査等と合わせて診断を行います。診断に基づいて必要な歯科治療や保健指導を行っています。

総合診療科

クリーンルーム歯科外来



砂川 光宏

院内感染の危険を減少させるために設立された感染症を有する方の一般歯科診療を行うと共に、免疫抑制剤等を使用している易感染性の方の歯科治療を防御環境の概念の基で実施するための院内共同利用施設です。

総合診療科

口腔ケア外来



荒川 真一

歯科衛生士が歯科医師と連携をとりながら、患者さんの生活習慣や口腔内の状態をチェックし、歯科衛生指導と専門的な処置を行なっています。また、附属病院病棟において、化学療法や手術前後の患者さんを対象として口腔ケアを行い、QOLの向上を図っています。

総合診療科

歯科アレルギー外来



三浦 宏之

歯科材料が原因または誘発物質になっていると思われる様々な疾患について、疾患との因果関係を各種検査により調べ、疾患改善と再発防止を図るための道筋を調べ、治療に関する適切なご提案をするための検査外来です。

総合診療科

先端歯科診療センター



水口 俊介

先端歯科診療センターは、それぞれの分野で最高クラスの技術と知識を持った歯科医師がチームを組んで診療に当たります。患者さんのお口全体の状況を考慮した治療計画で、快適で先進的な治療を行っています。





外来診療科案内 口腔ケア外来

診療科長 荒川 真一

(大学院医歯学総合研究科 生涯口腔保健衛生学分野 教授)

口腔内の健康管理を
サポートする
口腔ケア外来について
ご紹介します。



Q. 口腔ケア外来とは？

健康で快適な生活を送るために、口腔の健康は重要です。生涯を通じて健康な口腔を保つためには、日々のお手入れである「セルフケア」と歯科医師や歯科衛生士などの専門家による「プロフェッショナルケア」が必要です。

さらに、超高齢社会にあって問題となっている、口腔・全身のフレイルが口腔ケアにより予防できることが、明らかになっています。

口腔ケア外来では、歯科保健指導や歯石除去などを行いながら、歯科衛生士が患者さん一人ひとりに応じた口腔の健康管理について一緒に考え、健康づくりをサポートしています。

Q. 具体的にはどんな手順で診察が進みますか？

口腔内診査・問診

まず口腔ケア外来の担当歯科医師が健康状態の確認や口腔内の診察を行います。

歯周組織検査

次に歯周病の程度を調べるために、プラークコントロールレコード(プラークの付着割合)、歯周ポケットの深さ、歯肉からの出血の有無、歯の揺れ具合などを検査します。

歯科保健指導

検査結果に基づき、口腔の健康管理について具体的な指導をします。

口腔清掃指導(歯ブラシ・歯間ブラシなどの清掃補助用具の選択や使用方法の指導)、舌運動、口腔周囲筋や唾液腺マッサージなどの口腔機能の維持・向上のための指導、生活習慣の指導などを行っています。

歯石除去・歯面研磨(クリーニング)

歯周病の原因となるプラークや歯石を除去します。仕上げとして、歯の表面の着色を除去しつつ、少しでもプラークの付着を抑制するために研磨を行います。

Q. 当院の口腔ケア外来の特色を教えてください。

まず、歯科衛生士が主として活躍している外来であることが特徴です。また、周術期の口腔ケアにも力を入れています。口腔内環境を整えることで療養中のQOLを向上させることを目的としています。がんや白血病などに罹患し、手術、放射線治療、化学療法が必要な方に対して、手術前から手術後まで口腔ケアを行っています。

特に、医学部及び歯学部附属病院に入院中の方で外来受診ができない場合は、口腔ケア外来のスタッフが、病室まで伺い、担当医師・看護師と連携して歯科保健指導やベッドサイドでの口腔ケアを行っています。具体的には、歯ブラシや歯間ブラシ、フロスなどを用いたプラークコントロール、保湿剤使用の指導、消毒などです。

口腔ケア外来の受診について

口腔ケア外来では、歯科保健指導や歯石除去などの診察を予約制で行っております。1回の処置にかかる時間は約30分～1時間です。その他、ご不明な点がございましたら口腔ケア外来受付にご連絡ください。

口腔ケア外来 TEL 03-5803-4552 (月～金 9:00～15:00)

立体駐車場のご案内

東京医科歯科大学新立体駐車場をご利用ください

患者さん等のための十分な駐車場の確保、周辺道路における交通渋滞解消を図るために建設された立体駐車場は、303台が駐車でき、地下1階、地上2階建てで、省エネルギーやバリアフリーに配慮した施設となっています。ぜひご利用ください。



区分	時間料金	24時間最大料金	認証
外来患者さん/入院・退院患者さん及び付添人	20分毎 100円	1,500円	必要あり
患者さんへのご面会等	20分毎 200円	3,000円	必要なし
身体障害者手帳をお持ちの患者さん及び付添人	入庫から12時間まで無料以降30分毎100円	上限なし	必要あり

基金のご案内

歯学部附属病院支援基金にご協力ください

東京医科歯科大学歯学部附属病院では、患者さんへのサービス向上のための基金をスタートしました。皆様からのあたたかいご支援は、患者さんの「こんなサービスをしてほしい」「ここを改善してほしい」というご要望にお応えするために活用させていただきます。1口1000円から受け付けておりますので、ご協力をお願いします。

- ◆病院敷地内の御茶ノ水郵便局、全国の三菱東京UFJ銀行から手数料なしで、振り込みできます。
- ◆寄附金額が2000円を越えた場合、税金の優遇措置が受けられます。
- ◆基金にご参加いただいた皆様には、感謝状を差し上げ、任意でお名前を病院ホームページなどでご紹介させていただきます。

お問い合わせ先

東京医科歯科大学歯学部附属病院 総務課
 TEL: 03-5803-5406 FAX: 03-5803-0180
 メール d.somu.adm@tmd.ac.jp Webサイト http://www.tmd.ac.jp/dent_practice/index.html



代表電話番号 03-3813-6111 (歯学部附属病院とお伝えください)
 診療日 月～金 初診受付 8:30～10:30
 休診日 土、日、祝日と年末年始 (12月29日～1月3日)



東京医科歯科大学歯学部附属病院
 〒113-8549 東京都文京区湯島 1-5-45

編集発行: 東京医科歯科大学歯学部附属病院 地域歯科医療連携センター広報誌編集委員会 総合診療科講師 磯波 健一/看護部副看護師長 長浦 真由美
 歯科衛生保健部 宮本 洋子/業務課 大秋 智美/広報部特任講師 宇山 恵子(撮影)/デザイン SOYA